

しゅうてん
秋天にわれがぐんぐんぐんぐんと

11月 

～ 高浜虚子 ～



11月は立冬(今年は11/7)を迎えるので、俳句の季節でいうと冬になります。私はただただ眩しい夏の空よりも、秋の長雨の後のからりとした晴天が続く秋の空や、一面晴れ渡る透徹した冬の空に心惹かれます。この句は秋の句なので少々季節がずれてしまっているかもしれませんが、気持ちのいい秋空に自分ののびやかさを重ねた清々しさを感じます。俳句ではありませんが、石川啄木の「不來方のお城の草に寝ころびて/空に吸われし/十五の心」という有名な短歌があります。おそらく中学校で習ったと思います。この短歌も空に向かっていくベクトルの方向は同じなのですが、力強さの点では大きく異なっています。授業を抜け出した啄木の不安定な思春期の想いが「吸われし」という受身でよく表現されています。一方、虚子の句は「われが」と一人称が主語になっていること、「ぐんぐん」という単純な擬態語が繰り返されていること、述語が省略されていることでかえって力強さを感じさせてくれます。

10月は毎週のように模擬試験が続いたので、気分が落ち込むときがあったかもしれません。本当によく頑張りました。この頑張りがあるからこそ、皆さんはこの後に続く受験期に果敢に立ち向かい、自分の力を存分に発揮できるのだと思います。

なかなか秋空を眺める余裕は無かったかと思いますが、天気の良い日にはぜひ空を眺めて、冷涼な空気を胸いっぱい吸い込んで、「ぐんぐんぐんぐんと」力強く成長していく自分の姿を感じてみましょう。

(文責 奥田 久美子)

【11月の予定】

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	月	A きずなの日 冬服期間(~4/30)) 第2回生活実態調査	17	水	A 第4回マナーアップ運動
2	火	A	18	木	A
3	水	A 文化の日 国公立オープン、早慶模試(希望者)	19	金	A
4	木	A	20	土	県民の日
5	金	A	21	日	
6	土		22	月	第3回定期試験
7	日		23	火	勤労感謝の日
8	月	B	24	水	第3回定期試験
9	火	B	25	木	第3回定期試験
10	水	B	26	金	第3回定期試験
11	木	B			全統プレ共通テスト
12	金	B 大掃除・校外清掃 ヒーター点検	27	土	全統プレ共通テスト
13	土		28	日	
14	日	甲府市総合防災避難訓練会場(AM)	29	月	B
15	月	A きずなの日 第3回定期試験時間割発表	30	火	B
16	火	A	1	水	B
			2	木	B
			3	金	B
			4	土	
			5	日	
			6	月	A

保護者のみなさまへ



模擬試験が続き、次々と試験結果、志望大学の合格判定等がお手元に届いていることと思います。結果が思わしくないと生徒の気持ちはたいへん揺らいでしまいます。学校では結果をただ鵜呑みにするのではなく、データ分析を読み込んで、どの教科のどの分野を補強すべきなのか確認し実践すること、一にも二にもまず復習することを強調して指導しています。

受験期は保護者の皆様にとっても辛いものかもしれません。早く我が子を受験の苦しさから解放してあげたいと切に思うからだと思います。私自身も我が子の大学受験期はたいへん苦しく辛かったことを覚えています。しかしこの期間を我が子とともに人生について考え精神的に成長する時期として捉え、何とか乗り越えました。不安なこと、疑問に思うこと何でも構いませんのでぜひお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

「金木犀のかおり」

皆さん、こんにちは。キンモクセイの香りに癒され、心地よい秋を感じています。キンモクセイの花びらは小さく控えめな印象を受けます。その姿から「謙遜」という花言葉がついたと考えられているそうです。小さく控えめな花びらに対して、人の心を癒すほどの香りを放ちます。私は、キンモクセイのように「自分らしく過ごしながらも、誰かの支えになっている」そんな人間でありたいと思っています。



しかし、そんな思いとは裏腹に私がしてしまった失態をお話しさせていただきます。

私には、“わがまま”のことを“わがまが”と言ってしまう“キャプテン翼”に憧れる息子（7歳）と、兄の間違いをすかさず指摘する“プリキュア”に憧れる娘（4歳）がいます。

先日のことです。忘れ物をしてしまった息子に「何しに行ってるのー！あんたは！」と、鬼の形相で怒鳴り、叱ってしまったのです。しかも長い時間。じわじわとぐちぐちと……。



そんなときに必ず登場するのが寡黙な夫です。多くを語らないまま『嫌われる勇気』という本を私の前にそっと置きました。いわゆる自己啓発の本でした。「自分の考えを他者に押し付けない」「怒鳴るという行為は相手を自分の支配下におく行為である」と書かれており、私の心にストレートに突き刺さりました。息子への想いが強いあまり息子の気持ちは無視して、自分の感情を押し付けてしまったことを反省しています。

息子、娘が元気に生まれてきてくれた日のことを思い出しました。生まれてきてくれただけで充分幸せであり、その存在が私の励みになっていることを改めて感じています。今日、子ども達に對話を通して伝えたいと思います。

西高生として過ごしていく日々もあと半年。3年生では家庭科の授業がなく皆さんに会える時といったら…試験や模試の監督のときくらいだな。と寂しく感じています。そんな私の心を悟ったかのように廊下ですれ違う際、眩しい笑顔で挨拶をしてくれたり、掃除のゴミ捨ての際、家庭科室の窓越しにトントンと合図を送ってくれたり、遠くから会釈をしてくれたりとコミュニケーションをとってくれますね。日ごろなかなか對話ができない分、些細な事がうれしく感じます。ありがとう。

人生の中で様々な出会いがあり、支えてくれている方々がいること、恵まれた環境で教育が受けられていることも忘れずに過ごしてほしいと願います。

今（家庭・学校での生活、家族・友達・先生との関わり）を大切に。
そして自分を大切に過ごしてくださいね。
また明日、皆さんに会えるのが楽しみです。



文責 3年3組副担任 石原 理紗